

実証運行について（共同運営システムの試行的取組）

1 実証運行に係る経緯

（令和5年4月～令和5年9月）

- 本市とバス事業者8社が主体となり、実証運行路線の選定に係る協議を実施
- 協議の結果、次の内容で実証運行を行うことを決定
 - 広島バスの「深川線」（広島電鉄の「温品線」と一部区間が重複）を、温品四丁目でフィーダー化
 - 広島電鉄の「東観音台線・薬師が丘線（五日市北口発着便、西広島バイパス経由便）」について、地毛～団地間にフィーダー系統を新設

（令和5年10月）

- 共同運営システムの取組と実証運行の内容について、関係地区の自治会等へ説明

2 運行概要（案）

	① 温品四丁目フィーダー （中区～東区～安佐北区）	② 地毛フィーダー （佐伯区）
目的	路線重複の解消による効率化とダイヤ拡充の効果検証	郊外団地のダイヤ拡充の効果検証
運行事業者	広島バス(株)	広島電鉄(株) ※ひろでんモビリティサービス(株)へ委託
期間	12月1日（金）～12月28日（木）	
時間帯	9時台～15時台 （オフピーク時のみ）	9時台～17時台
経路	右図参照	

3 協議会における審議内容

- 温品四丁目フィーダーに係る運行内容の変更（広島バス）
 - 地毛フィーダーに係る路線の新設
 - 地毛フィーダーにおける車両の移動円滑化基準の適用除外
- （広島電鉄）

4 今後のスケジュール（案）

- | | |
|---------------------|--|
| 10月下旬
（運輸局への申請後） | 実証運行に係る道路運送法手続の申請・届出（バス事業者→中国運輸局）
関係地域へのチラシ配布 |
| 12月1日 | 実証運行開始（～12月28日まで） |
| 1月 | 運行結果の分析・成果のとりまとめ |
| 2月末 | 運行結果報告書を国へ提出 |
| 3月 | 活性化協議会に実証運行の成果を報告 |

